

ANNUAL REPORT 2024

Teach For Japan 2024 年度 年次報告書

TEACH FOR JAPAN ANNUAL REPORT 2024

教室から
世界を変える

ご寄付に関してはこちら

<https://teachforjapan.org/donation/>



Instagram、Facebook、X、Youtube

メルマガ登録はこちらから





VISION

すべての子どもが、
素晴らしい教育を受けることができる世界の実現

目次

ニュース/フェローシップ・プログラム概要	P03	共助	P15
フェローシップ・プログラムの仕組み	P05	グローバルな取り組み/教育の未来を創る対話の場	P17
SPECIAL TALK SESSION	P07	法人サポーター/寄付インフォメーション	P19
自治体連携	P11	団体概要/財務諸表	P21
アラムナイ	P13		

代表メッセージ

一丸ではあるが一様ではない コミュニティのインパクト

日頃よりTeach For Japanの活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

Teach For Japanの準備団体が発足したのは2010年、Teach For Allの加盟国として認可されたのは2012年、そして、フェローシップ・プログラムがはじまったのは2013年になります。2024年にはフェローシップ・プログラム第12期生が学校へ赴任し、104の学校で10,267名の子どもたちと関わる事ができました。Teach For Japanのフェローシップ・プログラムは、フェロー(教師)として子どもたちに教育の機会を提供するだけでなく、学校現場の経験を通して、公教育を取り巻く複雑で壮大な課題を解決する当事者意識とリーダーシップを育むことで、コミュニティとして社会システム全体の変革も目指しています。

フェローは学校での実践改善と教育システムとの間で抱える葛藤や、学校内だけでは解決が困難な事実に向き合う経験をする過程で、自らの視点や先入観を内省しつつ、様々な現実を

受け入れ尊重し、ビジョンと現実の間にある緊張を創造性へと変換することで、変化を起こすのではなく、変化が生まれるように導くコレクティブ・リーダーシップの種を得ます。そして、プログラム修了後もその種を育てる旅が続き、全体の構造を捉える視野、自己や他者の内面と向き合い信頼を育む対話力、そして反応的な課題対応ではなく未来共創へと人々を導く力を高め、種を開花させコレクティブ・インパクトを起こしていきます。昨年はプログラム修了後も共に歩むアラムナイ達の種が少しずつ開花し、社会的インパクトに繋がる息吹を感じた年になりました。

プログラムを修了した後、引き続き教師としてより良い学校組織づくりに尽力する方。教育行政に活躍の場を移し、学校現場に伴走して変革を推進する方。民間企業に転職し、民間のリソースが公教育に循環する仕組みづくりに挑戦する方。起業して学校の外から教育の機会を提供する方。政治家として教育政策からより良い社会づ

くりに取り組む方。研究機関で教育制度や子どもとの関わり、教育環境づくりについて研究する方。すべての子どもが素晴らしい教育を受けることができる世界の実現に向けて、様々な分野にいるアラムナイが2年間の経験を糧に、それぞれの想いを紡ぎ、コレクティブ・インパクトを起こせる可能性が高まっています。

我々は「一丸ではあるが一様でない」コミュニティです。優劣を比べるためではなく、他者との違いから自分をより理解し(メタ認知)、自己の成長を支え合う建設的な相互作用を生み出します。そして、不安を解消するだけでなく、不安と共存する視点を持ち、自己変革と社会変革を一体化します。2025年はビジョンに向けて、コミュニティとしてのインパクトを発揮していきますので、引き続き温かいご支援や協働をお願い申し上げます。

Teach For Japan 代表理事

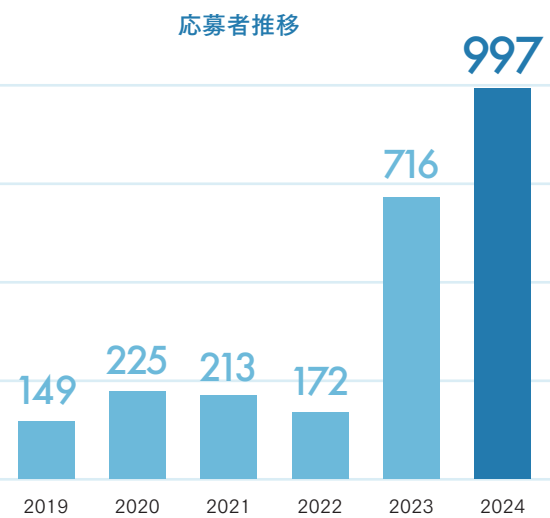
中原 健聡

フェロー第3期生。修了後は、札幌新陽高校で学校経営・開発に携わり、2019年よりTeach For JapanのCEOに就任。公教育の改革、教育格差の解消に向けて、社会課題の解決に挑戦している。



13期生への応募数最多更新

フェローシップ・プログラム第13期生の募集では、前年を超える多くのご応募をいただき、過去最多を更新しました。特に、WEB広告や公式HPを活用した情報発信が応募増加の大きな要因となりました。デジタル施策を強化することで、より多くの方にTeach For Japanの想いを届け、多様なバックグラウンドを持つ方々からの関心が高まりました。また、従来の説明会や多様なイベント、個別面談なども継続し、一人ひとりと丁寧に向き合う姿勢を大切にしてきました。教育への情熱を持つ人々が教師としての道を志すきっかけを作るべく、今後も積極的な情報発信とサポートを続け、日本の未来を担う教師の育成に努めてまいります。



このバッジ取得者は、学校教育法第1条に規定する学校において、教員(常勤講師含む)として、教科に関する授業に2年以上携わった経験もしくはそれに準ずる経験を有し、教員の職務を行うのに必要な社会的信望、熱意と識見を備えている者と評されています。

修了生へのオープンバッジ発行

「令和の日本型学校教育」では、多様な専門性を持つ質の高い教職員集団の形成が求められています。しかし、外部人材の受け入れは慎重に行われ、適性判断が教員免許の有無に依存しているため、外部人材が学校教育に参画するハードルが高いという矛盾を抱えています。そこで、教師の資質・能力の証明の在り方を多軸化・可視化し、特別免許状の発行促進や特別非常勤講師制度の活用を支援すること並びに学習支援員等のチーム学校の人材拡充を目指し、オープンバッジによる「フェローシップ・プログラム修了認定」の発行を開始しました。これにより、多様な専門性を持つ人材の学校教育への参画を促進します。



教育工学会での発表

2024年9月に行われた日本教育工学会秋季全国大会において、「教師とこどものより良い学習環境を創出するための研究」についてポスター発表をしました。今後も、より一層研究活動にも力を入れ、ビジョンの実現に向けて邁進してまいります。



アラムナイ就任式・1年お疲れ様会・壮行会

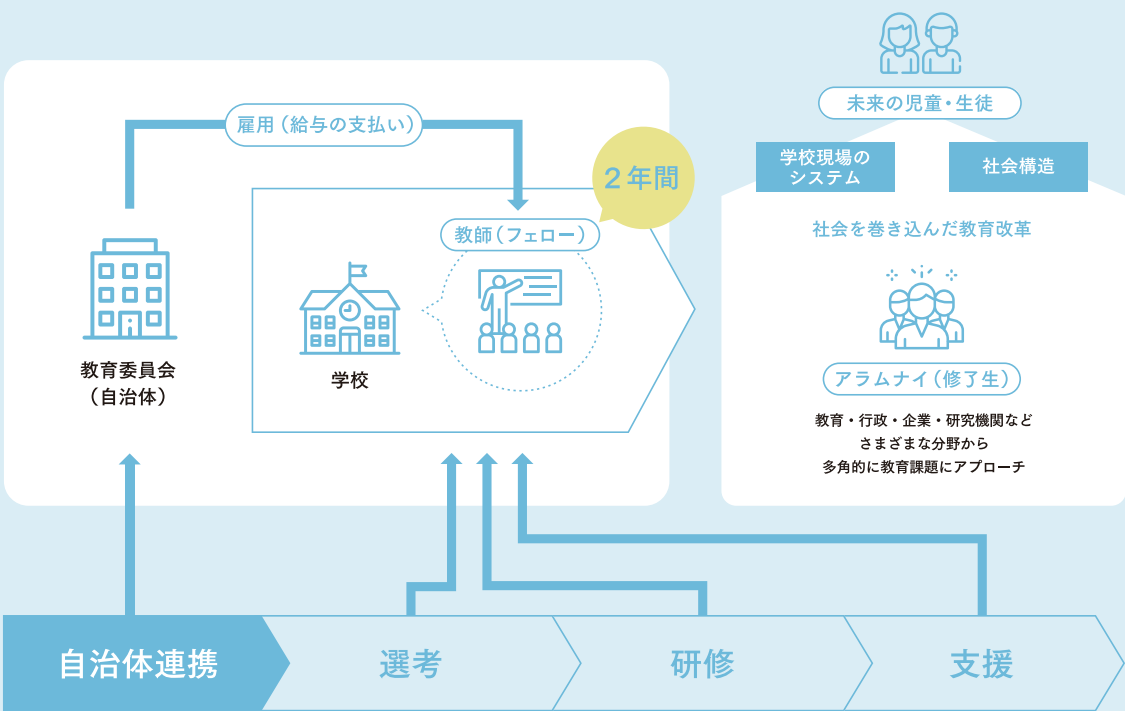
2025年3月、11,12,13期生の100名以上が、期を越えて一堂に会しました。各期の代表者による全体発表と参加者同士の対話の時間を設け、それぞれが自身の学びや変化を振り返る大切な時間となりました。



キッズデザイン賞受賞

フェローシップ・プログラムが、第18回キッズデザイン賞(主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会)を受賞しました。キッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品が選ばれています。審査委員からは「教員不足問題は社会的課題であり、現場の負担は増えている。臨時免許等を活用した、教育現場で活躍する人材を登用できる現実的な対応を形にした仕組みである。多様な職歴の人を取り入れることで、学びに多様性も生まれる。着眼点が良く、さらに魅力的な広がりにつながることを期待する。」と評価いただきました。

フェローシップ・プログラム概要



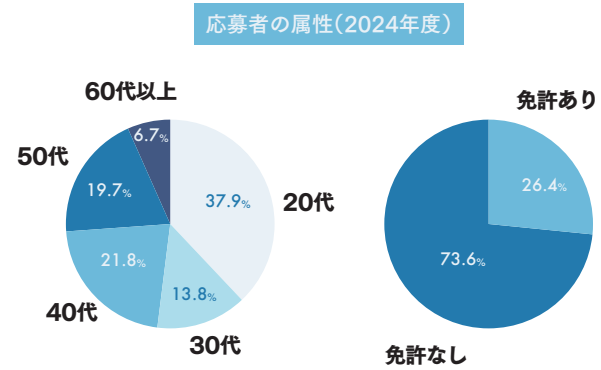
フェローシップ・プログラムとは？

フェローシップ・プログラムは、教育を通して社会をより良くしたいと考える多様な人材を選考し、資質・能力を研修を通して育み、学校現場に教師(フェロー)として2年間送り出す取り組みです。現在も数多くのフェローが日本全国それぞれの学校へ赴任し、子どもたちの可能性を最大限発揮できるよう活動しています。

赴任者数	赴任自治体数
104人	26都道府県
関わった子どもの数	67市区町村

※2024年度の実績です 海外2か国含む

選考



教員免許の有無を問わず、教育を通して社会をよりよくしたいと考え、主体的・自立的に学び続ける意思のある方を募集しています。応募者の年齢層やバックグラウンドは多様で、さまざまな分野の経験を持つ方が参加しています。中には、学びを深めたい、学校外のコミュニティとつながりたいと考える現役教員の方もいます。選考では、エントリーシートや課題、グループワーク、面接などを通じて、多角的な視点からフェロー候補生としての適性を見極めていきます。

プログラムの仕組み

フェローシップ・プログラムでは、これからの時代を見据えた教師としての資質・能力のもとに、選考や赴任前/赴任中研修の実施、自治体のニーズとフェローの特性を踏まえたマッチングなど、教師の採用・養成・研修を一体的に行っています。そうすることで、フェローとその教室の子ども達の現状をプログラム改善に活かす仕組みをつくっています。

自治体マッチング

自治体とのコミュニケーション

全国の自治体の教育委員会と年間を通じて密に連携し、活動への理解を深めながら、それぞれのニーズとフェローの特性を踏まえ、ご紹介しています。定期的なコミュニケーションを重ねることで、各自治体が求める人材像を把握し、より適切なマッチングを実現しています。

免許状が授与される仕組み

応募時に免許状をお持ちでない方には、広域自治体が授与する臨時免許状や特別免許状の制度を活用し、いずれかの免許状を持った状態で学校現場に赴任しています。プログラム修了後も教員継続を希望する場合は、通信制大学や教員資格認定試験で普通免許状を取得する方法があります。

免許状の種類とその目的

普通免許状

教諭、養護教諭、栄養教諭の資格を定め、資格能力を一定水準以上に確保する。

特別免許状

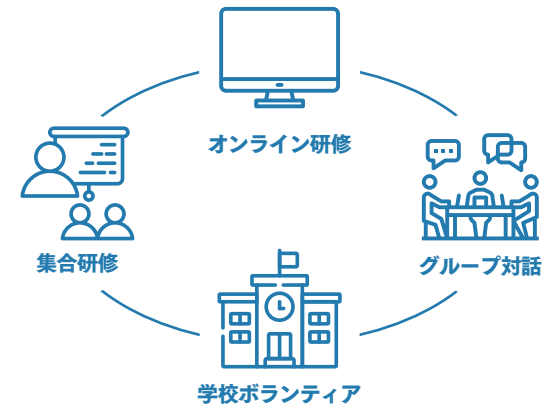
教員免許状を持っていないが優れた知識経験等を有する社会人等を教員として迎え入れることにより、学校教育の多様化への対応や、その活性化を図る。

臨時免許状

普通免許状を有する者を採用することができない場合に限定し、助教諭、養護助教諭の資格を付与し、資質能力を一定水準に確保する。

教職員免許法及び文部科学省の資料をもとに作成

赴任前研修



オンライン研修、集合研修、グループ対話、学校ボランティアなどを通じて、理論と実践を往還しながら学びを深め、教師として学校現場に赴任するための準備を進めます。研修には、教育に関する基礎を学ぶ教職教養セッション、科学的知見に基づき学びのメカニズムを探る学習科学ゼミ、現場で授業を改善し続けるための授業デザインセッションなどがあります。研修期間中には審査を行い、学びに向かう姿勢や状態などを総合的に見取り、赴任の可否を判断しています。

赴任前研修

自治体マッチング

赴任中研修

アラムナイ連携

赴任中研修

必修研修

教師としての資質・能力を学校現場でも育み発揮することを目的とし、学級経営や生徒指導、授業デザインなどの改善をし続けるため、対話を中心とした研修を行っています。学校現場に赴任してからも、成長し続けられるような学習環境を構築し、支援しています。

赴任中レビュー

年に2回、フェローが自身の考えや学校での実践を振り返るレポートを作成します。このレポートを基に職員と面談を行い、メタ認知を深める機会としています。対話を通じて課題を整理し、次の実践に生かせるようサポートしています。



学校訪問

フェローが赴任している学校を訪問し、授業や子どもとの関わりを見取っています。訪問後にはフェローとの振り返り面談も行い、フェローへの支援や研修改善に活かしています。

アラムナイ連携

プログラム修了後も研修やコミュニティづくりを継続し、ビジョン実現に向けてアラムナイと連携しています。同期との対話を通じて各自が今後のアクションを考える修了後研修に加え、2年間の現場経験を活かして社会をより良くするため、コレクティブ・リーダーシップの育成や各ステークホルダーにおける要職へのアサインも進めています。



FELLOW × CHILDREN × PARENTS

先生だからって

完璧ではないし偉くもない

下境先生はどんな先生ですか？

はるかさん 真面目でいつも一生懸命な先生です。授業は、私たちが分かりやすく楽しめるようによく準備をしてくれています。

お母様 下境先生が担任になってすぐに、家に帰ってきた娘が「下境先生が面白い！」とすごく楽しそうに学校の話をしてきていたので、いい先生なんだなと思っていました。1学期に先生からお電話をもらったことがあり、なにか悪いことをしたのかなと思っていたところ、授業中に娘がした良いことについて教えてくださり、驚きました。

はるかさん 下境先生は授業の合間でも、よく話をしてくれるんです。

下境さん たわいもない話や、遅刻しかけたとか忘れ物したとか、自分の失敗エピソードも子どもたちには話すようにしています。どうしても立場上子どもたちに注意することもあるんですが、先生だからって完璧ではないし偉くもない。失敗することもあるけどお互いに気を付けよう、というような関係性になれたらいいなと思っています。

この1年で印象的だったことはなんですか？

はるかさん スポーツフェスティバル（運動会）です。練習中のあるとき、初めて先生が「協力する」ということを教え

てくれました。そのときから、クラスの雰囲気が変わり始めました。



下境さん 今年担任をしたクラスは、実は年度当初、すごく真面目で優秀だけれど子ども同士のコミュニケーションが少ない印象を受けました。例えば授業の中でグループワークをしてもほとんどの子が話さない。一人ひとりはいいい子たちなんですけど、相手にあんまり関心がないのかなと思いました。教室は小さい社



第11期生
小学校赴任
下境 大貴さん



子ども
木村 遙花さん



保護者
木村 美彩さん

会みたいなのなので、やっぱり他人に関心がないっていうのは良くないんじゃないかと思ったんです。スポーツフェスティバルがこのクラスを変えるポイントになるなと思ったので、このクラスの最大限のチームワークを見せようと改めて子どもたちに話をしました。



その話を聞いて、どう感じましたか？

はるかさん 最初は難しかなと思ったけど、やってみたら楽しかったし、みんなでやることは難しいことじゃないと思いました。

下境さん スポーツフェスティバルでは優勝することができ、それを契機に、確かにこのクラスはガラッと変わりました。今では子ども同士の協働が多く見られるようになりました。

今のクラスでは、

みんなが支えてくれるし、

失敗してもみんなが助けてくれる

この1年間で自分が成長したと思うことはありますか？

はるかさん 3年生までは、クラスの代表とかをやるのはミスをしたら怖いから進んでやるタイプではなかったけど、4年生になって色んなことに挑戦したり、代表になったりしました。今のクラスでは、みんなが支えてくれるし、失敗してもみんなが助けてくれる。それに、他の人たちも色んな場面で代表をやってるから、私もやってみたいと思うようになりました。

お母様 確かに今年は、リーダー的な役割を多くやるようになって成長したなと思っていました。異学年交流会とクリスマス会の企画リーダーや、授業参観で発表した演劇の脚本係リーダーもしていましたね。

うこともあるじゃないですか。でも、助けてくれる人がいるなと思えば、勇気を出せることもある。そういう教室の雰囲気や環境を1年かけて作ってきて、あらゆる行事で本当に全員がなにかしらの役割を担ってくれました。

今日は、授業参観で子どもたちが作った演劇の発表があったようですね。

下境さん 子どもたちの中にはピアノが得意な子もいれば、セリフは苦手だけど絵が得意という子もいますし、ストーリーを作ることが得意な子もいます。役割分担は、それぞれ自分ができることを出して、みんなが力を発揮できるように脚本係の子たちがうまくストーリーに入れてくれ、それぞれの役でみんながリーダーシップを発揮してくれました。いわゆるリーダー格の子に周りがついていだけだったら、全員が持ち味を発揮して一つの作品を作り上げるというようなことはできなかったらうなと。すごく理想的なクラスになったなと思っています。



2年間のプログラムは修了となりますが、今後のキャリアはどのように考えていますか？

下境さん 今後は、海外の大学院に進学して理論的な観点から教育を捉えたいと思っています。簡単に言えば「人が本当に力を発揮できる環境ってどんな環境だろうか」みたいなことを突き詰めたいですね。今後も学び続ける教師として教育現場に貢献したいです。

下境さん 子どもたち全員が活躍できる場を作ることはすごく意識をしています。先ほどの話でもありますが、このクラスは4月時点ではリーダーになるような子がなかったんです。しかし、私はあえて誰かをリーダーにしようとは思わなくて、一人ひとりが自分のことでリーダーシップを発揮したら、面白いクラスになりそうだなと。これは自分にとって一つのチャレンジだと思いました。誰しも、自分にはできないかもしれないと思



子ども一人ひとりが

自律して学べること。

先生も豊かに働ける環境をつくる。

どのようなビジョンで赴任されましたか？

秋野さん 僕が目指しているのは、子ども一人ひとりが自律して学べるようになることと、先生も豊かに働ける環境をつくることです。実は大学時代、教員養成大学に進学したのですが、教員の志望が高かったわけではなくて、でも同期や先輩が心身を痛めていく姿を見たり、民間企業と学校現場の働き方の差を見たりする中で、教育現場を支えたいと思うようになりました。その後、ファーストキャリアは教育系の民間企業に就職しました。そこでマクロな教育政策に関わるうち、政策と学校現場のギャップを痛感し、現場まで伝達されるうちに、政策のビジョンが消え形だけになってしまうことに課題を強く感じたんです。また自分自身も理論だ

けが膨れ上がってしまっていると感じました。そこで、実際に学校現場に行っ、実践に移すことを通して、本質を追求しようと思い、Teach For Japanのフェローシップ・プログラムに参加する決意をしました。



実際の学校現場はいかがですか？

秋野さん 加賀市は教育政策を噛み砕いて分かりやすく学校現場に届ける体制があり、教育政策が子どもの学びに直結しやすいと実感しています。ただ、学校では本当に色んな想定外のことが起きるので、理論を理解しているだけでは動かせない難しさも痛感していま

す。

秋野先生の第一印象は？

細川校長先生 新任にも関わらず落ち着いた子どもたちに向き合う姿が印象的でした。

秋野先生が覚えているかわからないんですけど、私はすごくよく覚えているのが、初任の4月の学級目標づくりを見学した時です。

年度はじめて、新しい先生ということもあって、子どもたちは浮足立っている様子でしたが、秋野先生は頭ごなしに叱るのではなく「今の自分たちの態度は目標と合っているかな？」と冷静に問いかけていましたよね。

あれを初任で、しかも子どもたちと出会ったばかりの4月にやれるのはすごいと思いました。そのあと、「どこかで教員をされていたんですか？」と秋野先生に聞いてしまったほどで、教員経験があるのかと本気で思ったくらいでした。

秋野さん 覚えてます。覚えてます。(笑)



第11期生
小学校赴任
秋野光哉さん



校長先生
細川貴代さん

授業の中とにかくアウトプットし、

見取って、すぐにフィードバックの

サイクルを何回も回していく

実際にどのようなことに取り組まれましたか？

秋野さん 僕は前職で学校のICT関連の仕事をしていたので、授業では“子ども一人一人を主語にした学び×ICT”を積極的に取り入れてきました。小規模校という環境もあり、ICTを活用して一人ひとりが自分のペースでアウトプットできるようにして、少しの成長でも必ずフィードバックするというサイクルを回し続けることができました。

例えば、年度初めは10分間で一文しか書けなかった子が、秋ごろには教科書の内容やネットから集めた情報を自分で整理・分析して、あっという間に500字ほどの文章を自分の言葉で書き上げるようになっていました。自分で情報を取捨選択し、整理して、自分の言葉で発信する力が大きく育ったと思います。



どのような工夫で、そこまでの変化が生まれたのですか？

秋野さん やはりICTを使うことで、子どもたち全員がアウトプットしやすくなり、僕もひとつひとつ見取りやすくなるんです。

他にも、他県や海外の先生とオンラ

インで交流する授業も実施しましたが、やっぱり一番大きいのは日々の授業の中でとにかくアウトプットして、見取って、すぐにフィードバックするサイクルを何回も回していったことですね。



細川校長先生 文部科学省が掲げる“個別最適化学び”や“協働的な学び”を、具体的にどう実践するかが難しい部分でした。でも秋野先生が「このツールなら子どもたちが自分で情報を選べますよ」「こうすると他の子の考えも見ながら学べますよ」など、具体的に授業実践の姿を示してくれることで、私たち教員にもイメージが湧きやすかったと感じています。秋野先生にはGIGAスクール推進の役割を担ってもらっていたので、これらの取り組みを職員会議や研修で紹介してもらったり、終礼で時間をかけずに共有してもらったりしていました。何より校内に“すぐ相談できる人”がいる安心感はとても大きいです。結果的に先生も子どももICTスキルがぐんと伸びました。

秋野さん 校務においても、紙や口頭ベースの情報共有の在り方を、クラウドを活用した情報共有に変えていくチャレンジをさせていただきました。業務一つ一つの目的に立ち返り、より良い手段を選ぶことで、業務の質アップと、時間の短縮につながり、先生が豊かに働くきっかけづくりができたと感じています。

先生たちがちょっとでも

「楽になった」「豊かになった」と

思えることがしたい。

今後学校や子どもたちがより良くなるためにやっていきたいことは？

秋野さん 僕がこれからも大切にしていきたいのは、先生たちが少しでも豊かに働けるような仕組みを整えることです。この2年間で校務についていろいろチャレンジさせてもらって、政策と学校現場をつなぐ役割を肌で感じることでできたのは本当に大きい。近い未来は、基礎自治体レベルで、先生たちがちょっとでも「楽になった」「豊かになった」と思えることがしたい。いずれは教員養成や採用の仕組みそのものに関わって、現場が抱える課題を根本から改善していきたいです。

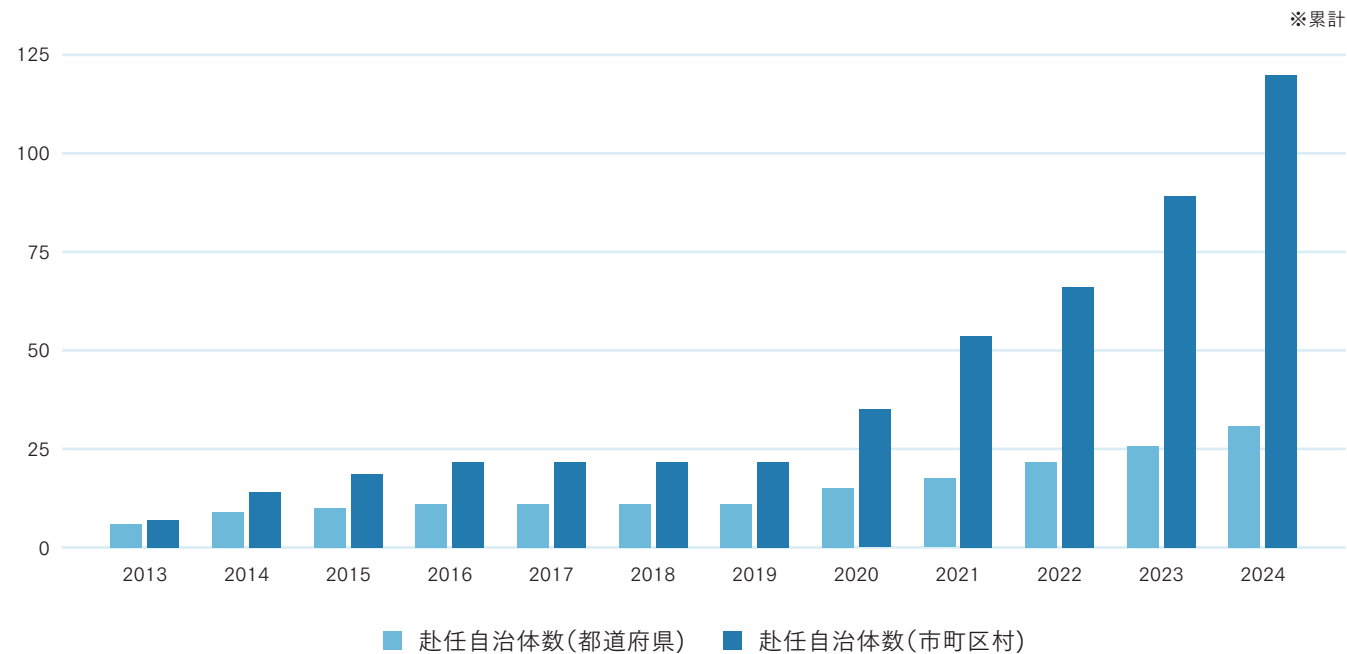
秋野先生やTeach For Japanに期待していることは？

細川校長先生 ぜひその想いをカタチにしてほしいです。子どもと向き合う手応えや変化を感じ取れた経験は、きっとどんな進路でも生きるはず。また、私は子どもたちも保護者も本当にいろんな方がいると思っています。だからこそ、教員もいろんな人がいた方がいいと思っています。Teach For Japanのプログラムを通じて様々な経験を持った人が学校に入り、子どもたちと出会って感動するような場面を共にすることで、教員を続けてほしいと思いますし、一緒に教育現場をより良くしていきたいと思っています。

PRINCIPAL × FELLOW



毎年多くの自治体から問い合わせをいただき、連携自治体も増えてまいりました。自治体ごとのニーズとフェローの状態を考慮し、マッチングしたフェローをご紹介します。



自治体担当者の声

広島県では、令和6年度までに8名のフェローを、TFJとの連携により県内の小中学校に配置することができています。全国的に教諭の人材確保が難しくなっている社会情勢の中、教育への情熱あふれる人材を紹介いただき、関係市町からは感謝の声が届いています。フェローの中には、これまで本県を訪れたことのない方もおられますが、赴任先の地域行事に積極的に参加することで、広島の豊かな自然や歴史・文化への理解を深め、本県教育の充実に努めてくれています。2年間の任用期限終了後も、引き続き広島の子供たちのために尽力されている方もおられます。教職を目指す方と広島県の学校とをつなぐ架け橋として、今後もTFJとの連携を進めていきたいと考えています。



広島県教育委員会 教職員課

久次 満治 さま

01 山口県 教育委員会からの研修受託



山口県教育委員会が実施した「教職チャレンジサポート研修会」の研修の一部を受諾しました。本研修は、山口県公立学校教員採用試験における教職チャレンジサポート特別選考合格者(教員免許はないけれど、教員採用試験を受験し、合格後2年間で教員免許を取得する者)に対し、教員としての専門性を育み、円滑な入職に至るよう支援する目的で行われています。TFJが受諾した全3回の研修では、様々なバックグラウンドを持つ受講者の方々が対話を通して自己価値観の理解や子ども達の主体的な学びについての考えを深めました。また、最終回では、実際に模擬授業をしながら子ども達の主体的な学びを作る授業デザインについて考え、より良い学びを作ることの重要さと大変さを、対話を通して学びました。

新たな連携先

3 都道府県
1 市区町村

02 守口市 教育委員会との事業連携協定

持続可能な公教育の充実・発展の実現に向けて

2024年10月、守口市教育委員会と事業連携協定を締結しました。守口市教育委員会とTFJ、双方が有する人的資源の交流と、知的・物的資源の有効活用を図りながら、教育の分野で協働し、持続可能な公教育の充実・発展を実現することを目的としています。また、企業や地域社会との連携や民間資金を活用した「共助」による学びの充実を図ることで、社会全体で子どもたちの特性・個性を伸ばす「多様な学び」を充実させていきます。



03 壱岐市 エンゲージメントパートナー協定

壱岐市 市長
篠原 一生 さま

全国的に叫ばれている教職員のなり手不足は、離島である壱岐市においても、今後、深刻な課題となってきます。私は「未来を育む子育てと学びの島」を目指しており、教職員を確保することは、教育の質を担保する意味からも大変重要です。この度の協定で、全国から「壱岐で教えてみたい。」という、意欲ある人材がたくさん教壇に立ち、壱岐の教育がますます活性化することを期待します。

educore 代表理事
入江 潤 さま

educoreは、「すべての子どもが幸せに生きる社会」の実現を目指し、「社会のグランドデザイン」と「ボトムアップによる構築」を柱に、社会の「丸ごと」にアプローチする社会づくりを「僻地」から進めています。今回の協定は、連携・協働で新たな社会価値を共創し、「持続可能な社会の作り手の育成」と「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を実現させるもの。僻地から日本の未来を創ります。

TFJ 代表理事
中原 健聡

TFJは、公教育の変革を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。コレクティブ・インパクトは、産官学民から多様な主体が参加し、共通の目標を設定して、複雑で困難な社会的課題の解決に向けたアプローチですが、今回のエンゲージメントパートナー協定はそれを体現するものになります。民間の資源を公教育の発展に活用した「共助」による学びの充実を図るノウハウを活かし、社会全体で子どもたちの特性・個性を伸ばす公教育、そして、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を実現します。

修了後、今のキャリアを選ばれた理由は？

フェロー修了後も引き続き教員を続ける予定でしたが、教育委員会で学校伴走をするポジションの仕事があるとの貴重なお話をいただき、とても悩みました。子どもと直接関わることも大好きでしたが、多忙な現場で先生方が日々の業務に追われ、周りに相談することもできない姿や、管理職の先生が孤独になりがちでいらっしゃる姿を見てきた経験から何か出来ることはないかと、常々考えていました。赴任した2年間で学校を内部から体感できたことを活かし、外から先生方と授業改善などについて一緒に考えることができる仕事は魅力的でした。また前職である大学でのキャリアカウンセラーの経験から、キャリア教育を意識した授業づくりの重要性を多くの先生方に伝え、共有できるとも思いました。国内でもまだまだ浸透していない「学校伴走」という考え方を広げることに少しでも貢献し、TFJメンバーの次のキャリアの可能性を広げることができたらと思い、チャレンジすることを選択しました。

フェローシップ・プログラムの経験がキャリアに活かせていると感じることは？

候補生の時の研修で、学習科学からの授業デザインや脳科学など対話中心の深い学びを積み重ねた経験は、教員研修づくりなどにそのまま活かされています。そして、現場で悩みながら試行錯誤した日々で感じたこと、考えたこと、実践したことを、先生方の現状を考慮したサポートに反映していけるよう心がけています。また外部人材としての採用のため、長年その地で教育に携わっている方々に、他地域での取り組みとの比較からの良い点、改善点をはじめ、取り入れられることなどを提案出来ることもTFJの一員だからこそだと思っています。今後は門真市の先生方と他地域の子どもたちをつなげて、先生も子どもも新たな視点や気づきを得る機会をつくれたら面白いだろうな、と考えています。



門真市教育委員会 / 学校教育課参事
教育センター伴走チームリーダー
石黒 亜矢子さん（第10期生/中学校赴任）



現在のお仕事内容や、お仕事をする上で大切にしていることは？

「子ども主体の学び」「探究的な学び」を市内に推進していくことをメインに、指導主事と共に、市内小中学校に伺い、校内研修や授業改善のサポートをしています。管理職や研究主任など先生方それぞれの役割から学校を見ると、同じ市内の学校でも違う組織であり、課題や良さも異なります。学校・先生が主体的に考えていただくことを第一に、気づきを促すための問いの投げかけを意識したフィードバックをするように心がけています。行政と教育の間で、一教員だったら関わらない課題を目の当たりにしたりと、この立場の責任の重さや影響力の強さに気の引き締まる毎日です。

今感じている課題感と取りたいアクションは？

教育の在り方が全国的にも教師主体から子ども主体へと教育観の転換が図られてきてはいますが、特に社会（保護者や政治など）の理解が進んでいないように感じます。「学校」とはいわゆる一斉授業スタイルで子どもが静かに大人しくしていることを良しとする観念や、学力＝テストの点数や成績といった目にみえるものが絶対であるという、これまでの教育の当たり前の固定観念の強さを感じることが多々あり、それが教員の授業改善へのチャレンジを阻んでいるようにも感じます。最近のTVドラマでも「個人の問題は政治の問題である」といった投げかけがされていますが、この仕事をしていると、とても考えさせられるメッセージです。とはいえ、大きな視点で見すぎるとアクションしづらくなるので、まずは次のことを意識して学校伴走を続けていきたいと考えています。①目の前の子どもたちが生き生きと学びに向かう姿を見出せるような授業や学校環境をつくること ②①の様子を保護者や地域の方々にみていただけるような場をつくること ③多くの人たちに学びを楽しむことの重要性を伝えていくこと これらを現場の先生方への伴走を通して、地道にコツコツと行動し続けたいと思います。

01 コミュニティコネクター

TFJコミュニティ（アラムナイ、フェロー、候補生）の活性化を目的とした活動をご自身で計画し、実施するコミュニティ・コネクターに、第9期生 大澤登さんと田中雅巳さんが就任されました。月1,2回の交流会が実施され、期を越えたTFJコミュニティの関わりが生まれています。

Message

教育へ想いのある方々がこれだけ集まっているので、繋がりを広げ、楽しい時間を増やそう！と、コミュニティコネクターをやってみました！交流会に参加した方が、「短時間で仲良くなれるもんなんだな〜」と、言ってくださったのが印象的で、やって良かったと思った瞬間でした！



第9期生
大澤 登さん

03 模擬授業の見取り

候補生が模擬授業を行う集合研修において、フェロー・アラムナイが参加しています。学びの協働者として、模擬授業の見取りをし、授業後には候補生の学びが深まるような問いかけをしたり、応援のメッセージを送ったりしています。休憩時間にも期を越えた活発な交流が見られています。

Message

初心を忘れずにいたく、集合研修の見取りボランティアやイベントに参加させていただきました。TFJのめざす方向性の素晴らしさや団体としての進化を肌で感じ、改めてアラムナイとして教育業界に貢献したいと思いました。TFJコミュニティの繋がりが得られる学びも多く、とてもありがたいです。



第9期生
河原 幸穂さん

02 座談会企画・実施

フェローシップ・プログラムへの応募を検討している方を対象に、少人数でアラムナイの経験談を聞くことができる座談会を企画し、月1,2回開催されました。参加者の方からは、「具体的なお話をお伺いすることができ、キャリアチェンジにあたっての懸念点・不安点の解消にもつながりました。」という声をいただいています。

Message

学校は、多様な視点をもつ人材を求めており、一方で教師にチャレンジしてみたいと考えている人も数多くいます。私はそこを繋げられないかと考え、社会人とフェローシップ・プログラム修了生が本音で語り合う座談会を企画しています。不安を少しでも軽くし、自信を持って教師の道に踏み出せるよう、応援していきたいです。



第9期生
庄子 貴喜さん

04 分科会講師

フェローを対象とした赴任中研修において、児童生徒指導や学級経営、特別支援、ICT活用、学び合い活動、学校組織マネジメント、国際教育といった、フェロー自身の関心や課題感に応じて選べる7つの分科会を設け、アラムナイが講師を担いました。プログラムを修了した経験を元に、対話を中心とした学びの場を設計しています。

Message

これまで協働的な学びによって、学びを深め、友の良さに気付く生徒達の姿を見ました。そのような姿が全国の教室にあふれて欲しいと思い講師に応募しました。分科会でフェローの学び合う姿は、温かく、そして熱があります。これからも彼らとともに、すべての子どもが成長できる「教室」を目指します。



第2期生
小暮 直也さん

共助

TFJ ×

公教育の発展に向け、産官学民から多様な主体が当事者意識を持って参加し、個人と社会のウェルビーイングを高める共助の実現を目指して、様々な協働をしています。



× DHL × アラムナイ



子どもたちの可能性を広げるキャリア教育の機会

DHLグループとの連携事業GoTeachの取り組みの一つとして、多くの子どもたちが、世界経済を支えているDHL社員の皆様との接点を通して、ひらめきや刺激など新たな活力を得ていくことを目的に実施しました。当日は、DHL社員とアラムナイによるキャリアセッションで日本社会で活躍している女性たちのリアルな日常や思いを聞いたり、レゴシリアスプレイを活用した「自分らしさ」探究ワークショップで将来の夢やイメージを形にしました。

× 東京学芸大 × 神戸親和大



未来の教育を支えるリカレント事業

東京学芸大学、神戸親和大学と連携し、社会人が教員としての新たなキャリアを築くためのリカレント事業を展開しています。本事業では、TFJが学習支援実習を担当し、受講生が教育現場での実践を積む機会を提供しています。また、神戸親和大学と協力し、「ダイバーシティと教育課題」「こどもの心身と発達」などの講義を実施。多様な視点から教育を学ぶ場を創出しています。社会人の経験を活かし、教育の可能性を広げる取り組みです。

× アセットマネジメントOne

金融経済教育に関する教職員の新たな学びを支援

アセットマネジメントOne株式会社で金融経済教育を推進する「未来をはぐくむ研究所」と、多様な専門性を有する教職員集団の構築を目的に、金融経済教育分野における研修開発に向けて協議を開始しました。この研修では、教師一人ひとりの個別最適な学びを支援し、教職員が金融経済教育という新たな領域で専門性を身に付けることを目指します。さらに、学校現場において金融経済教育を行うための体制及び計画を検討し、自治体での金融経済教育研修の確立に向けて、協働を加速させます。

× 和泊町 × パナソニック ホールディングス(株)
× (株)musuhi



STEAM ワークショップ

教科横断的な視点の中で様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成できるようにするために、パナソニック ホールディングス株式会社と株式会社musuhiの方々とは協働し、3つのSTEAMワークショップを和泊町の小中学生の子どもたちを対象に開催しました。プログラミングを使ったクッキング・光のアー
ト、レゴシリアスプレイを通して、未来の担い手として想いを馳せる機会となりました。

× 和泊町 × ダイセル



共助による学びの場の創出

鹿児島県の和泊町、株式会社ダイセルと協働し、理科に特化した公営塾(和泊サイエンスアカデミー)を実施しています。この取り組みでは、株式会社ダイセルから講師として人材を輩出し、地域の子どもたちに多様な学びの機会を提供しています。公営塾では、理科の実験を通じた探究的な学習と、AI教材を活用した自己調整学習を組み合わせ、一人ひとりの学びを支援しています。企業、自治体が力を合わせることで、未来を担う子どもたちの可能性を広げる場を創出しています。



Student Summit への参加

2024年11月、マレーシアでTeach For All主催のStudent Summit 2024が開催され、TFJアラムナイの山岡さんと生徒2名が参加しました。本サミットは、中高生と教師が教育課題を議論し、変革の担い手となることを目的とし、8か国から参加者が集結。ワークショップや対話を通じ、リーダーシップや課題解決の視点を学びました。

今回参加したことで、内向的な「私」だからこそこのリーダーシップの形もあるのではないかと感じました。「引っぱりつつも支える」がキーワードです。また帰国途中での山岡先生の「恵まれているからこそGiveする」という言葉を聞いて、自分の信念にもとづいて行動し社会に貢献できる大人になりたいと思いました。



高校1年生
川名 紗楓さん

私は進路に迷っていましたが、今回参加して教育の可能性を大きく感じる事ができ、教育学部への進学を決めるきっかけになりました。日本のこども達の精神的幸福度を向上するために、誰もが経験する学校教育として何が出来るか、教育を専門的に学びこれからも考えていきたいと思っています。



高校2年生
万谷 彩乃さん

Alumni Summit への参加

2024年11月、Teach For All主催のAsia Pacific Alumni Summitがインドのプネで開催されました。同会議には、アジア太平洋地域に加盟する15か国の団体(団体職員及びプログラム修了生などの教育関係者)が参加し、今後のさらなるコレクティブ・インパクトに向けて、主に①教育システムの変革、②変革をもたらすリーダーシップ、③協働と連携の3つの議題に関するディスカッションやベストプラクティスの共有が行われました。

第3期生

長村 裕さん



各国のアラムナイインパクトの実践ではその規模のダイナミックさに圧倒される部分はあったが、質の部分ではTFJの実績が世界をリードし誇れるものだ実感した。国内でのアラムナイインパクトの充実とともにTFJの実践の世界への発信を進めていきたい。

第9期生

田中 雅巳さん



現地の学校を訪問した際、教職員は話す全ての内容を「私たち/We」で語り、生徒は学校で学べることに感謝し、保護者は学校を全面的に支持・信頼していました。学校の理想像を目に焼き付けることができました。

教師の日ギャザリング

10月5日教師の日になみ、「教師の日ギャザリング2024」を開催しました。本イベントには、教育に関心のある300名以上の方々にお申し込みいただきました。セッション①では、「子どもも大人もウェルビーイングな教育のあり方とは」をテーマに、株式会社ワーク・ライフバランスの小室淑恵氏、聖心女子大学の永田佳之氏、文部科学省の廣田貢氏が登壇。ウェルビーイング実現に向けた各分野の取り組みや課題について議論しました。セッション②では、学校現場での実



践に焦点を当て、埼玉県上尾市立上平小学校の中島晴美校長と、ベネッセ教育総合研究所の庄子寛之氏が登壇。具体的な実践例を共有し、教育現場でのウェルビーイング向上の可能性を探りました。セッション③では、芦屋市の高島峻輔市長が「対話と協働で主体的な学校をつくる」をテーマに、市政の視点からウェルビーイングの推進について語りました。多様な立場の参加者がつながり、学び、教育の未来を共に考える貴重な機会となりました。



文部科学省委託事業 合同成果報告会

2025年3月、文部科学省による「大学・民間企業等と連携した教師人材の確保強化推進事業」に関する合同成果報告会を開催しました。全国から教育委員会の皆様に参加し、対面・オンラインのハイブリッド形式で実施しました。本報告会では、教師のなり手発掘、教職の魅力発信、外部人材の活用促進といった

取り組みについて、各教育委員会が事例発表を行いました。「教職の魅力発信」「ペーパーティーチャーの入職支援」「大学と連携した研修設計」など、多様なアプローチが数多く取り上げられ、教育委員会と大学、民間企業、地域団体との協働による成果が報告されました。また、パネルディスカッションでは、教師人材の確保に向けた新たなアプローチや、学校組織の変革に必要な視点について意見を交わしました。単なる人材確保にとどまらず、より多様な知識・経験を持つ人々が学校現場に関わる意義や、そのための環境整備について活発な議論が行われました。本報告会を通じて、現場の課題や今後の方向性について建設的に意見交換を行う貴重な機会となりました。今後も、多様な主体と協力しながら、より魅力的な教職環境の構築を目指して取り組みを進めていきます。



法人サポーター



寄付以外の支援

プロボノ

VISIONに強く共感し、会社で培ったデータ分析や企画スキルで、少しでもお手伝いしたいと思い、チームメンバーと共に参加しました。子ども達を想う先生方が、人手不足が原因で十分に向き合う時間を確保できない、構造的な課題はとても重大だと感じました。ご支援させていただいた事をとても嬉しく思っています。



SMBCグループ
井上 翔太郎さま

自身の成長機会を求め、本活動に参加しました。支援を通じて教育現場の課題を実感する中で、TFJの取り組みが企業の人材育成にも活かせる可能性を感じました。企業とTFJの協働がさらに発展し、より多くの価値を生み出すことを期待しており、今後もTFJの活動を応援していきたいと思います。



富士通株式会社
菅野 哲郎さま

集合研修参加ボランティア

法人サポーターのSMBCグループ様、Dow様、DHL様、EY Japan様から、累計200名を超える方々に、集合研修(模擬授業)の児童生徒役としてご参加いただきました。模擬授業後には、児童生徒の視点から率直なコメントや応援の言葉をいただき、フェロー候補生の学びに繋がっています。また、このような取り組みを通して、多くの方に教育に関心をお寄せいただく機会となりましたら幸いです。



寄付インフォメーション

MONTHLY
毎月の寄付

月々 1000 円から
継続的に
ご支援いただける方

ONETIME
今回の寄付

1 回 1000 円から
その都度
ご支援いただける方

CORPORATE
法人サポーター

法人としての寄付や
協働・連携を
ご検討の方

遺贈



遺言により財産を特定の団体に寄付できる方法です。遺贈手続きに関わる専門家として三菱UFJ信託銀行様と提携しており、ご紹介することができます。尚、ご寄付は税制優遇の対象となります。

ふるさと納税



渋谷区のふるさと納税における寄付先団体になっております。2025年のふるさと納税の受付について、詳細が決まりましたらHPやメールマガジン等で改めてご連絡いたします。

東京マラソン



東京マラソン2025チャリティの寄付先団体になっております。例年、次年度のランナーの募集開始は、5~6月頃になります。ご関心のある方は、Teach For Japanの団体HPよりお気軽にお問い合わせください。

ハチドリ電力



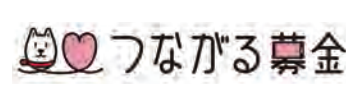
世界13カ国で社会問題に取り組む株式会社ボーダレス・ジャパンが地球温暖化を解決するために始めた電力サービス「ハチドリ電力」と連携しています。ご自宅や会社で利用される電気代の一部が寄付につながります。

バリューブックス



本で寄付をする「チャリボン」を運営するバリューブックスと連携しています。古本をご寄贈いただくことで、その買い取り額がTeach For Japanへの寄付につながります。ご家庭で不要になった本をお送りください。

ソフトバンク



ソフトバンク「つながる募金」は、毎月継続的に寄付ができる募金プラットフォームです。ソフトバンクのiPhoneやスマートフォンをご利用の方は、毎月の携帯電話の利用料と一緒に募金することができます。

詳しくはWEB サイトをご覧ください。

Teach For Japan 寄付

検索

<https://teachforjapan.org/donation/>



SNS

@TeachForJapan

@TeachForJapan

@teach_for_japan



THANK YOU FOR YOUR SUPPORT!

いつも温かなご支援をいただき、誠にありがとうございます。

Teach For Japan は、これからもビジョン実現に向けて全力で活動してまいりますので、引き続き応援のほどお願いいたします！

団体概要

名称 認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
Teach For Japan(ティーチフォージャパン)

会員数 正会員数:12名(2024年12月31日時点)

職員 常勤職員:16名(2024年12月31日時点)

役員 代表理事:中原 健聡
理事:松田 悠介(Crimson Education Japan株式会社 代表取締役社長)
理事:桜井 一正(BCG Managing Director & Senior Partner)
理事:川島 健資(元ドイツ証券 取締役副会長、元マネックスPB株式会社 会長)
理事:田中 満公子(元大阪教育大学連合教職実践研究科特任教授)
監事:齋藤 宏一(アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
パートナー、弁護士)

2024年度財務諸表

活動計算書

(単位:円)

	科 目	金 額	小計・合計
【A】 経常収益	1.受取寄附金		79,822,691
	受取寄附金	79,822,691	
	2.受取助成金等		17,142,630
	受取民間助成金	16,986,630	
	受取補助金	156,000	
	3.事業収益		19,804,455
	事業収益	19,804,455	
	4.その他の収益		254,696
	受取利息	31,552	
	雑収入	223,144	
経常収益 計			117,024,472
【B】 経常費用	1.事業費		
	(1) 人件費		51,068,740
	給料手当	44,746,924	
	法定福利費	6,321,816	
	福利厚生費	0	
	(2) その他経費		57,691,049
	荷造運賃	113,167	
	広告宣伝費	28,020,553	
	会議費	47,702	
	会場費	5,195,112	
	旅費交通費	4,261,014	
	通信費	1,776,102	
	消耗品費	1,156,067	
	事務用品費	16,882	
	水道光熱費	46,387	
	新聞図書費	615,218	
	印刷・製本費	243,796	
	諸会費	169,518	
	支払手数料	1,826,516	
	支払リース料	120,120	
	地代家賃	1,361,498	
	支払保険料	41,983	
	租税公課	25,000	
	支払報酬料	10,178,352	
	減価償却費	2,398,000	
	支払利息	78,062	
	雑費	0	
事業費 計			108,759,789

【B】 経常費用	2.管理費		
	(1) 人件費		5,194,267
	給料手当	3,795,758	
	法定福利費	1,160,538	
	福利厚生費	237,971	
	(2) その他経費		7,003,340
	荷造運賃	111,215	
	会議費	21,228	
	会場費	214,536	
	旅費交通費	2,674,811	
	通信費	1,056,310	
	消耗品費	745	
	事務用品費	55,909	
	水道光熱費	14,870	
	新聞図書費	1,900	
	印刷・製本費	29,329	
	諸会費	214,335	
	支払手数料	301,551	
	支払リース料	51,480	
	地代家賃	558,040	
	賃借料	0	
	租税公課	944,429	
	支払保険料	11,570	
	支払報酬料	741,082	
	雑費	0	
管理費 計			12,197,607
経常費用 計			120,957,396
当期経常増減額 【A】－【B】…①			△ 3,932,924
【C】経常外収益			
経常外収益 計			0
【D】経常外費用			
経常外費用 計			0
当期経常外増減額 【C】－【D】…②			0
税引前当期正味財産増減額①＋②…③			△ 3,932,924
法人税、住民税及び事業税…④			84,900
前期繰越正味財産額…⑤			94,106,929
次期繰越正味財産額③－④＋⑤			90,089,105

その他情報

上記以降の情報については右記のURL
よりWEB上にて確認いただけます。



2024年度財務諸表

財産目録

(単位：円)

科 目				金 額	小計・合計
【A】 資産の部	1.流動資産				88,192,831
	現金預金				76,076,558
	普通預金 新生銀行/本店			64,262,931	
	普通預金 みずほ銀行/渋谷中央支店			6,441,002	
	普通預金 三井住友銀行/丸の内支店			1,495,795	
	普通預金 三菱UFJ銀行/新橋支店			3,782,353	
	普通預金 ゆうちょ銀行			90,866	
	普通預金 GMOあおぞらネット銀行			3,611	
	未収金				11,012,100
	受託事業			11,012,100	
	未収入金				9,756
	経費過払分等			9,756	
	前払費用				1,094,417
	その他諸経費			1,094,417	
	流動資産 計 …①				88,192,831
	2.固定資産				
	(1) 無形固定資産				7,194,000
	ソフトウェア				
	CRMシステム			7,194,000	
	(2) 投資その他の資産				9,849,638
	World Leam & Play Summit事業特定資産			8,000,000	
	敷金				
	タイムズ24			80,000	
	長期前払費用				
	42Tokyoパートナープラン利用料			1,588,889	
	RJオフィス 保証料			180,749	
	固定資産 計 …②				17,043,638
	【A】資産合計 ①+②				105,236,469

【B1】 負債の部	1.流動負債				
	未払金				7,225,050
	経費未払金 従業員立替			145,802	
	経費未払金 その他諸経費			7,079,248	
	預り金				336,014
	源泉所得税			181,609	
	住民税			106,500	
	雇用保険料			47,905	
	未払法人税等				84,900
	令和6年12月期確定申告分			84,900	
	未払消費税等				901,400
	令和6年12月期確定申告分			901,400	
	流動負債 計 …③				8,547,364
	2.固定負債				
	長期借入金				6,600,000
	新型コロナウイルス感染症特別貸付			6,600,000	
	固定負債 計 …④				6,600,000
	【B1】負債合計 ③+④				15,147,364
	【B2】正味財産 合計【A】-【B1】				90,089,105

2024年度財務諸表

貸借対照表

(単位：円)

科 目		金 額	小計・合計
【A】 資産の部	1.流動資産		88,192,831
	現金預金	76,076,558	
	未収金	11,012,100	
	未収入金	9,756	
	前払費用	1,094,417	
	流動資産 計…①		88,192,831
	2.固定資産		17,043,638
	(1) 無形固定資産		7,194,000
	ソフトウェア	7,194,000	
	(2) 投資その他の資産		9,849,638
	World Leam & Play Summit事業特定資産	8,000,000	
	敷金	80,000	
	長期前払費用	1,769,638	
	固定資産 計…②		17,043,638
【A】 資産合計 ①+②			105,236,469
【B1】 負債の部	1.流動負債		8,547,364
	未払金	7,225,050	
	預り金	336,014	
	前受金	0	
	未払法人税等	84,900	
	未払消費税等	901,400	
	流動負債 計…③		8,547,364
	2.固定負債		6,600,000
	長期借入金	6,600,000	
	固定負債 計…④		6,600,000
【B1】 負債合計 ③+④			15,147,364
【B2】 正味財産の部	前期繰越正味財産額		94,106,929
	当期正味財産増減額		△ 4,017,824
	【B2】 正味財産合計		90,089,105
【B】 負債及び正味財産合計 【B1】 + 【B2】			105,236,469